

法務の役割って何ですか？その4 お金・利益を生む源泉は何か

鳥飼総合法律事務所 弁護士 鳥飼重和

今回は、お金・利益を得るには、それなりの社会構造があることを述べた。重要なので復習したい。お金・利益を得る社会構造は、次のようになっている。

「顧客満足のある物・サービスの提供→社会の信頼→購入（売上）→お金・利益」
このように、お金・利益を得る社会構造の要は、2つあることが分かる。

- ① 顧客である社会の人々をより良くする物・サービスを提供すること
- ② 顧客を含む社会の人々に、企業、物・サービスが信頼されること

この①と②は、密接不可分な一体をなしている。社会の人々により良い、物・サービスを継続して提供しつづければ、時間の経過を経て、その物・サービス自体およびその物・サービスを提供する企業を、社会の人々は信頼することになるからである。その信頼の証が、コーポレートブランド、物・サービスのブランドである。

このようなお金・利益を生む社会構造に適応すれば、次のような循環を生むことになる。

「より良い物・サービスの提供→社会の信頼→お金・利益→投資（研究開発・設備投資等）→より良い物・サービスの提供」

この社会構造は、社会の信頼を雪だるまの芯として、より良い物・サービスの提供とお金・利益の永続的循環関係をもたらすものである。このような永続的循環関係の構築こそ、企業に永続的成長をもたらすものである。その要・芯となるのが、社会の信頼なのである。

「儲け」という漢字がお金・利益を得る社会構造をズバリ表現している。「儲」は、「信」と「者」から構成され、社会の人々から信頼される者がお金・利益を得るといっているからである。つまり、信頼が永続的な意味でのお金・利益の源泉だということである。「儲け」という漢字を発明した人の英知に感心するほかない。

「春秋左氏伝」に、「義は利の本なり」とある。義とは、人の道あるいは誠実性ともいえるものであり、法令等の遵守も含まれるものであり、それは、社会の信頼に置き換えることのできるものである。したがって、「義は利の本なり」という言葉は、社会の信頼が利益の源であると教えていることになる。

泥棒や談合等法令違反は、社会の信頼を得ることにつながらない。そのため、一時的には、お金・利益を得ることになるが、信頼を芯とする物・サービスとお金・利益との間の永続的循環関係を創ることはできない。このように社会構造に反するお金・利益を得る考え方・行動は、人生の破滅・企業の衰退を招くことは明らかである。

反対に、社会の信頼を得ることは、社会構造上、物・サービスとお金・利益との間の永続的循環関係を構築することになる。この社会的信頼には、法令等の遵守が含まれるから、法令等の遵守によって社会的信頼の構築に奉仕する法務は、企業に永続的成長をもたらす社会構造に適応するための必須の役割を担うことになる。

鳥飼重和（とりかい しげかず）

税理士事務所勤務後、司法試験に合格。日本税理士会連合会顧問。専門分野：内部統制・役員責任を中心とした会社法。税務訴訟を中心とした税法。著書：『内部統制時代の役員責任』（共著、商事法務、2008）、『考運』の法則』（同友館、2009）など他数。